

2月4日(土)「地域ふれあい事業」 自分発見体験学習発表交流会

菊池警察署で体験学習発表交流会があり、菊池警察署内の7中学校の1年生40人や少年補導員、施設代表者などが参加しました。

発表会では、いたわり優しさや慈しみの心を、体験をとおして身につけることを目的に、昨年11月26日(土)に市内のシルバーホームや保育園などであった「地域ふれあい事業」での体験を通して学んだことを「園児にご飯を食べさせたり、おむつを替えるなど、慣れないことで要領がわからず涙が出たことや、保育士の先生の指導で少しずつうまくできるようになり、園児も気持ち良さそうに体全体で喜びを表してくれるようになった時は、とても嬉しかった」などとその事業に参加した子どもたちが発表しました。

新明保育園での体験学習に参加したという旭志中学校1年の池田彩美さんは「将来は保育士になって保育園の先生になりたいです」と交流から学んだ将来の夢を話してくれました。



体験を通して学んだことを発表する生徒

2月8日(水)統計功労者・統計グラフコンクール受賞者の表彰式

熊本県庁で統計功労者と統計グラフコンクール受賞者の表彰式が行われ、功労者表彰を受けた6人が出席しました。

この統計功労者表彰は、統計調査に従事し、その功績が顕著であると認められた人や事業所に贈られるもので、式では、受賞者に知事から賞状と副賞が授与されました。

また、統計グラフコンクールは、児童・生徒に統計への理解と親しみを持ってもらおうと、県が毎年行っているもので、市内の小学校からも多数の応募がありました。

今後も様々な統計調査が行われ、まちづくりのための資料として活用されていきます。市民の皆さんの統計調査への協力をお願いします。

表彰者と作品は、次のとおりです。(敬称略)

熊本県統計功労者表彰

- 熊本県知事表彰 渡邊純子
- 農林大臣表彰 宮川啓子、土山興男、山田節子
- 厚生労働大臣表彰 医療法人信岡会 菊池中央病院
- 熊本県統計協会会長表彰 富永英子

平成17年度熊本県統計グラフコンクール

第1部(小学校1年生及び2年生の児童)

- 入選「夏休みががんばったよ お手つだい」 菊池市立七城小学校 田島侑佳(2年)

第3部(小学校5年生及び6年生の児童)

- 入選「たいへんだ! こんなにおし歯が・・・」 菊池市立泗水西小学校 岩下愛里(6年)、山口愛仁(5年)、岩下真実(4年)、春田麻衣子(4年)

パソコン統計グラフの部

- 入選「読書デーはノーテレビデー」 菊池市立戸崎小学校 稲田葉月(6年)、小堀花(6年)、中野寛子(6年)、前田綾香(6年)、中尾茉琴(5年)

2月2日(木) 菊池北中学校の古田 潤くんが スキー全国大会への出場を報告

菊池北中学校2年生の古田 潤くんが、新潟県である「第43回全国中学校スキー大会」への出場を決め、福村市長にその報告に訪れました。

古田くんがこの競技を始めたのは小学校5年生からで、この時期には、宮崎県五ヶ瀬町や大分県九重町にあるスキー場で練習しています。古田くんは「大会では、精一杯力を尽くして頑張ります」と抱負を話してくれました。 ※全国大会は2月7日(火)に新潟県の赤倉チャンピオンスキー場であり、古田くんはジャイアントスラロームの競技に出場し、健闘しました。



全国大会への出場報告に訪れた古田 潤くん(菊池北中2年・右)

1月17日(火)川辺保育園が熊本県 男女共同参画推進事業者表彰を受賞

男女が共同して参画することのできる職場づくりに、積極的に取り組んでいる県内の事業者を表彰する「熊本県男女共同参画推進事業者表彰」で川辺保育園が表彰を受けました。

県内の5団体が表彰され、そのうちのひとつに選ばれたもので、同園が平成16年度から男性の保育士を積極的に採用したり、仕事内容も男女を分けずに対等に取り組んでいることなどが評価されました。

上野聖子園長は「とてもうれしいです。これからも周りからの期待に応えられるよう頑張りたいです」と話されました。

また、同園では、保育園を地域における男女共同参画推進の核と位置付け、中学生などの就業体験や地域と連携した保護者参観、育児講座の実施などに積極的に取り組んでいます。



年長組の授業で、園児たちに折り紙の折り方を教える男性保育士

1月31日(火) 「第92回熊日緑のリボン賞」の受賞を報告

長年にわたり地域で奉仕活動に取り組んでいる人々をたたえる「第92回熊日緑のリボン賞」に、菊池市で活動している「座・まりあ(樫川久美子代表)」と「きくちおはなしのもり(原保奈美代表)」の2団体が表彰され、その報告に福村市長を訪れました。

「座・まりあ」は、人形劇などを幼稚園や小学校、老人施設などで披露していて、昨年11月には、わいふ一番館で活動10周年の結成からあしあとを展示し、公演会も開きました。

「きくちおはなしのもり」は、絵本の読み聞かせを中心に手遊びや紙芝居などを続けて10年を迎え、中央公民館での毎月2回の定例会や、要請を受けた保育園に向くなどの活動を続けています。

2つの団体の楽しく温かい活動で、子どもたちなどが豊かな心を育てていくためにも、今後の活躍が期待されます。



受賞の報告に訪れた「座・まりあ」のメンバー(左と、「きくちおはなしのもり」のメンバー(右))

1月28日(土) 東京泗水会総会・ふるさとの夕べ

東京泗水会総会・ふるさとの夕べが、旧泗水町出身者など約80人が参加して、九段会館(東京都千代田区)でありました。

東京泗水会は、旧泗水町出身などの東京近郊在住者を中心として平成3年1月に発足し、現在約280人の会員で構成されています。会の活動としては、会員相互の親睦と交流を図ることで郷土愛を高めたり、情報交換をしたりするなどを行っています。

このような郷土会は、旧七城町・旧旭志村にもありますが、新市が発足したことにより、新組織設立に向けての検討が行われています。



東京都の「九段会館」であったふるさとの夕べで、昔を思い出しながら歌う参加者

2月3日(金) 世代間交流会・ふるさとの味実践交流会

七城中学校の2年生60人とむつみ会・菊池うまかもん衆のメンバー約30人が世代間交流をし、生徒たちが郷土料理作りに挑戦しました。

体育館であった開会式で、堤 康雄校長が「郷土料理には生活の知恵が入っています。しっかり学んで、家庭の味、自分の味として守っていきましょう」とあいさつし、早速2組に分かれた生徒たちは、とじこ豆やのっぺい汁などの料理作りに挑戦しました。

生徒たちは、日ごろは持たない包丁の扱いに苦戦しながらもどうにか料理を完成させ、「今日覚えた料理を家族にも作ってあげたいです」と話してくれました。

この催しは、食生活の変化の中で、忘れられつつある郷土料理を実践活動を通して継承させ、世代間の交流を深めることなどを目的に、菊池市教育委員会が毎年この時期に行っています。



むつみ会や菊池うまかもん衆のメンバーにサトイモの皮のむき方を教わる生徒たち